

R5「くまナビ評価問題」中学校国語 活用のポイント

対象学年：第2学年以上

領域・単元等 「読むこと」(文学的文章を読む)

1. 作成の趣旨

「読むこと」の領域で文学的文章を扱う学習で、文章から人物の言動の意味や心情の変化などについて考え、内容を解釈する際に重要な、「**根拠となる具体的な叙述を引用した上で考えをまとめる力**」を身に付けることをねらいとして、本問題を作成しました。

【関連する学習指導要領の内容】

「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」

〔思考・判断・表現C「読むこと」イ〕

2. 活用場面等(例)

例1 【文学的文章を扱う単元の終末に評価問題として】

〈光村図書2年：「盆土産(9月頃)」「走れメロス」(1月頃)〉

〈東京書籍2年：「辞書に書かれたもの(6月頃)」「走れメロス」(11月頃)〉

例2 【3年生の文学的文章を学習する単元のレディネステストとして】

〈光村図書3年：「握手(4月頃)」「故郷」(11月頃)〉

〈東京書籍3年：「故郷」(11月頃)〉

⇒活用後について

定着が不十分な場合は、当該単元の中で人物の心情や言動にあたる叙述を根拠として引用する学習活動を設定したり、苦手としている生徒の状況を丁寧に見取ったりしましょう。

3. 文学的文章における授業の充実に向けて

○文学的文章を読んで、人物の言動の意味や心情の変化等を解釈する学習活動を行う際には、どの部分からそう思ったのかを問い直したり、文章中の言葉に線を引かせたりするなどして、根拠となる叙述を引用しながら自分の考えを説明することができるように指導することが大切です。

○根拠となる叙述は、その人物の言動や心情として直接的に描写されている他にも、人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表されている場合があることを確認できるよう、他者と考えを交流するような場面を意図的に設定しましょう。

○引用の際は「」で括る等のルールも確認しましょう。

文学的文章の学習で、人物の言動の意味や心情を考えるときは、なぜそう思ったのかが分かる文章中の言葉に線を引くなどして、根拠を明らかにすることが大切です。



根拠となる叙述は、その人物の言葉や行動に直接示される他に、情景描写や他の人物との関わりにも表れている場合がありますよ。